

# 川越市観光アンケート調査

## 報告書

平成24年度



川越市マスコットキャラクター

ときも

平成25年5月

川越市

## 目 次

1. 平成24年川越市入込観光客数の概要	2
2. 観光アンケート調査の統計・分析	3
2-1. 観光アンケート調査の趣旨	3
2-2. 観光アンケート調査の方法	3
2-3. 観光アンケート調査の結果	5
2-3-1. 出発地	5
2-3-2. 性別	10
2-3-3. 年齢	10
2-3-4. 同行者	11
2-3-5. 交通手段	12
2-3-6. 滞在期間	12
2-3-7. 宿泊観光客	13
2-3-8. 観光時間	15
2-3-9. 来訪回数	15
2-3-10. 認知方法	16
2-3-11. 立ち寄り観光地	17
2-3-12. 交通費	18
2-3-13. 宿泊費	18
2-3-14. 飲食費	19
2-3-15. 入館料・入場料	19
2-3-16. お土産品購入費	20
2-3-17. 要望	21
2-3-18. 意見・感想	22
3. 観光消費額	23

# 1. 平成24年川越市入込観光客数の概要

平成24年に川越を訪れた観光客数は623万7千人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ21万人の増加（3.5%増）となった。

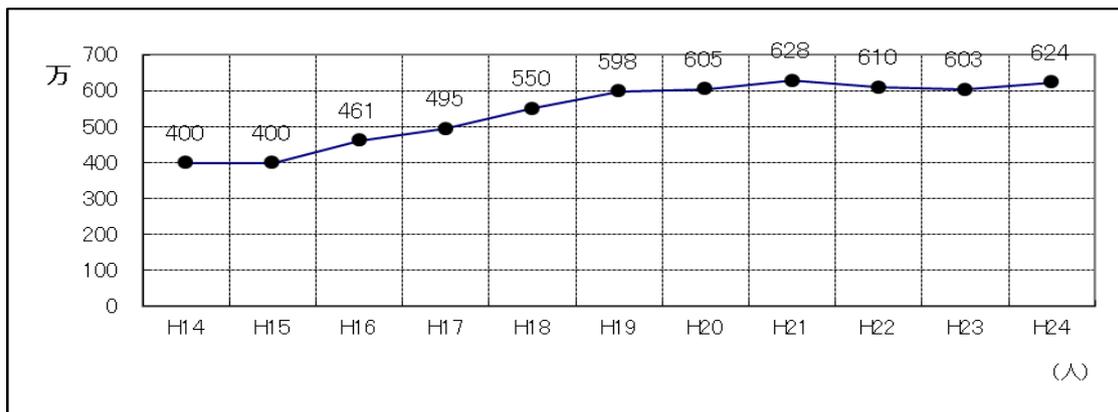
川越市立の5館については、いずれの施設においても観光客数が増加した。市立博物館では約4千人（前年比で7.1%増）、市立美術館では約9千人（前年比で15.6%増）、川越まつり会館では約1万8千人（前年比で31.7%増）、川越城本丸御殿では約1,800人（前年比で2.3%増）、蔵造り資料館では約3千人（前年比で7.0%増）増加した。

また、これまで集計の対象としていた安比奈親水公園、市民プール、市営テニスコート（3カ所）、初雁公園野球場、川越運動公園、武道館については、観光庁が平成21年12月に策定した「観光入込客統計に関する共通基準」によると「日常利用の多い施設」と判断され、集計の対象にはならないので、平成24年入込観光客数からは除いた。各種行事については、市制施行90周年を記念して盛大に開催された川越まつりの入込観光客数が2日間で103万6千人となり、前年よりも約26万6千人と大幅に増加した（前年比で34.5%増）。また、平成23年は東日本大震災の影響により中止となった春まつりオープニングイベントや春の舟遊、春まつりフィナーレイベント等のイベントが復活し、例年どおり開催された。

観光客増加の要因として、震災の影響により遠のいた客足が戻ってきたことや、市制施行90周年を記念し、市内各地で、川越まつりを初めとする各種の記念事業が実施されたこと、テレビや新聞等のメディアを通して広く川越がPRされたことが挙げられる。

※川越市入込観光客数は暦年で調査を実施。

(表1) 過去10年間の川越市入込観光客数



平成24年の外国人入込観光客数は46,000人で、平成23年の25,000人と比べて、84.0%の大幅な増加となった。また、平成22年の42,000人と比較しても、約9.5%の増加となり、震災前の水準を上回る結果となった。

主な要因としては、震災により遠のいた外国人観光客の客足が戻ってきたことが挙げられる。また、格安航空会社（LCC）等の新規就航等による航空座席供給量増加や航空運賃の低下、訪日個人観光査証の発給要件緩和、観光庁等による訪日旅行プロモーション効果等により、国全体の訪日外客数についても、前年比で34.6%増加しており、その波及効果があったものと考えられる。

## 2. 観光アンケート調査の統計・分析

### 2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、アクセス方法、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

これまでに、平成17年（標本数：9,924件、調査期間：平成17年1月～平成17年12月）、平成19年（標本数：7,491件、調査期間：平成19年1月～平成19年12月）、平成20年度（標本数：9,341件、調査期間：平成20年4月～平成21年3月）、平成21年度（標本数：6,197件、調査期間：平成21年4月～平成22年3月）、平成22年度（標本数：6,243件、調査期間：平成22年4月～平成23年3月）、平成23年度（標本数：6,283件、調査期間：平成23年4月～平成24年3月）と当調査を実施してきた。

当調査の実績に基づき、平成24年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

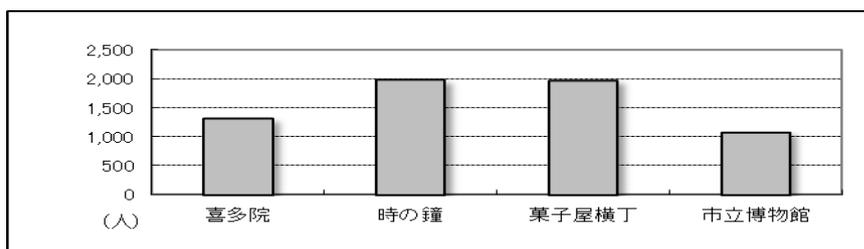
### 2-2 観光アンケート調査の方法

平成24年4月から平成25年3月までの1年間を調査期間とし、主要観光地点4ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計6,366件の観光アンケート調査を実施した。

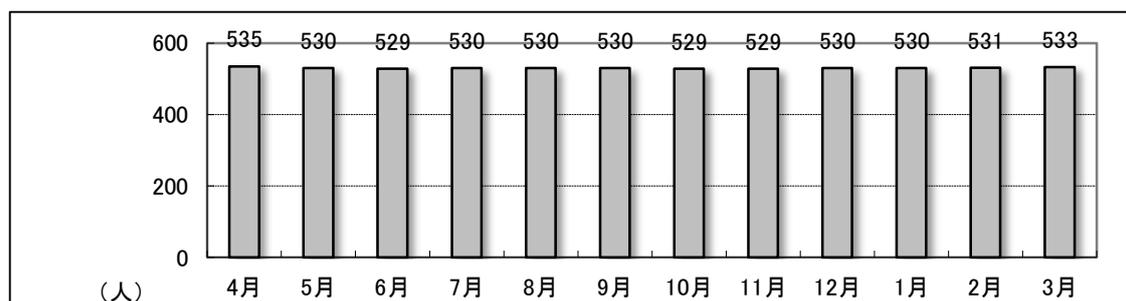
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は（図1）のとおりである。

また、（図2）のとおり、6,366件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

（図1） 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



（図2） 各月の観光アンケート調査数





## 2-3 観光アンケート調査の結果

### 2-3-1 出発地

アンケート回答者総数 6,366 人のうち、国内が出発地の観光客は 6,246 人、国外が  
出発地の観光客は 114 人だった（6 人は不明）。

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

#### (1) 国内

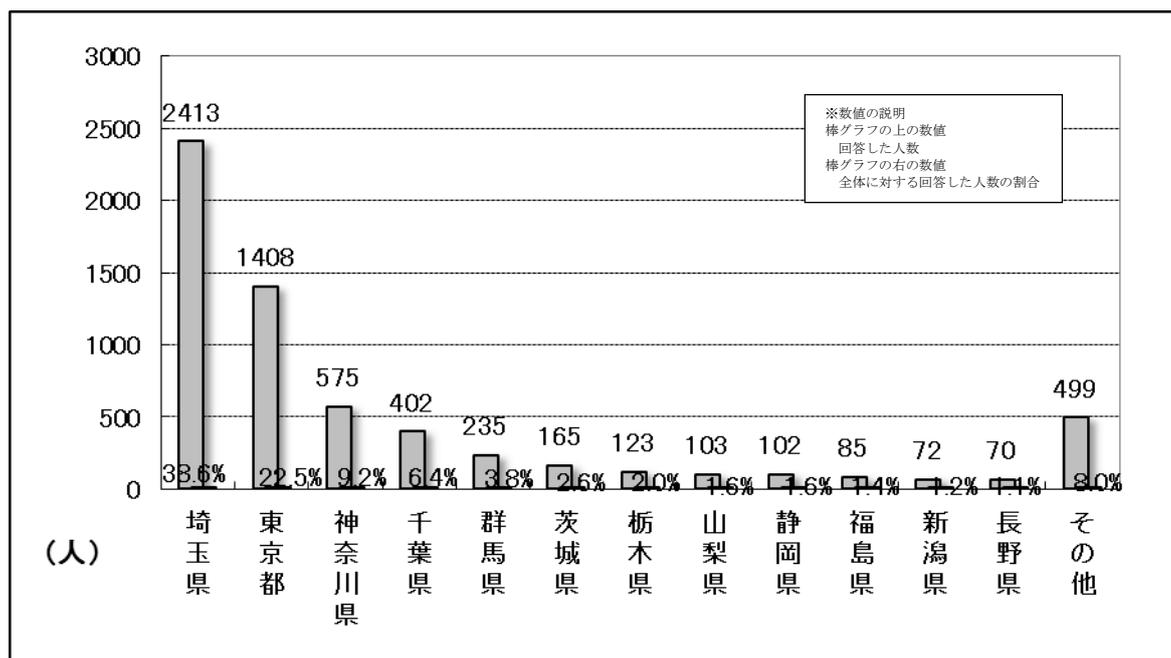
##### ①都道府県別

川越を訪れた観光客の 8 割以上が関東地方の各都県から出発していた（図 3）。特に、  
県内市町村および東京都を出発地とする観光客の割合が 61.1%であり、全体の過半数  
を占める結果となった。これは、都心から 1 時間以内で訪れることのできる立地特性  
が要因となっているものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出発地とする観光客の割合は 38.9%であり、  
前年度より 2.1 ポイント上回る結果となった。神奈川県からの観光客数が平成 23 年度  
の 488 人、7.9%から 575 人、9.2%に増加した。平成 25 年 3 月 16 日から東武東上線・  
東京メトロ副都心線が横浜から川越を結び東急電鉄と相互直通運転を開始したが、3 月  
16 日以降の神奈川県からの観光客数は 38 人であった。

関東地方の各都県以外では、静岡県（102 人・1.6%）、福島県（85 人・1.4%）、  
新潟県（72 人・1.2%）から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県  
別出発地は表 2 のとおりである。

（図 3） 出発地



(表2) 都道府県別出発地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	5, 424人	埼玉県(2,413), 東京都(1,408), 神奈川県(575), 千葉県(402), 群馬県(235), 茨城県(165), 栃木県(123), 山梨県(103)
東北	212人	福島県(85), 宮城県(48), 秋田県(27), 山形県(24), 青森県(16), 岩手県(12)
東海	169人	静岡県(102), 愛知県(47), 三重県(11), 岐阜県(9)
北陸・信越	167人	新潟県(72), 長野県(70), 富山県(13), 石川県(7), 福井県(5)
近畿	115人	大阪府(52), 兵庫県(29), 京都府(17), 奈良県(7), 滋賀県(6), 和歌山県(4)
九州・沖縄	58人	福岡県(24), 熊本県(9), 鹿児島県(6), 佐賀県(5), 沖縄県(5), 長崎県(4), 宮崎県(3), 大分県(2)
北海道	49人	北海道(49)
中国	39人	広島県(16), 山口県(9), 島根県(7), 岡山県(5), 鳥取県(2)
四国	13人	愛媛県(4), 香川県(5), 高知県(3), 徳島県(1)
計	6, 246人	

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

## ②市区町村別（埼玉県・東京都）

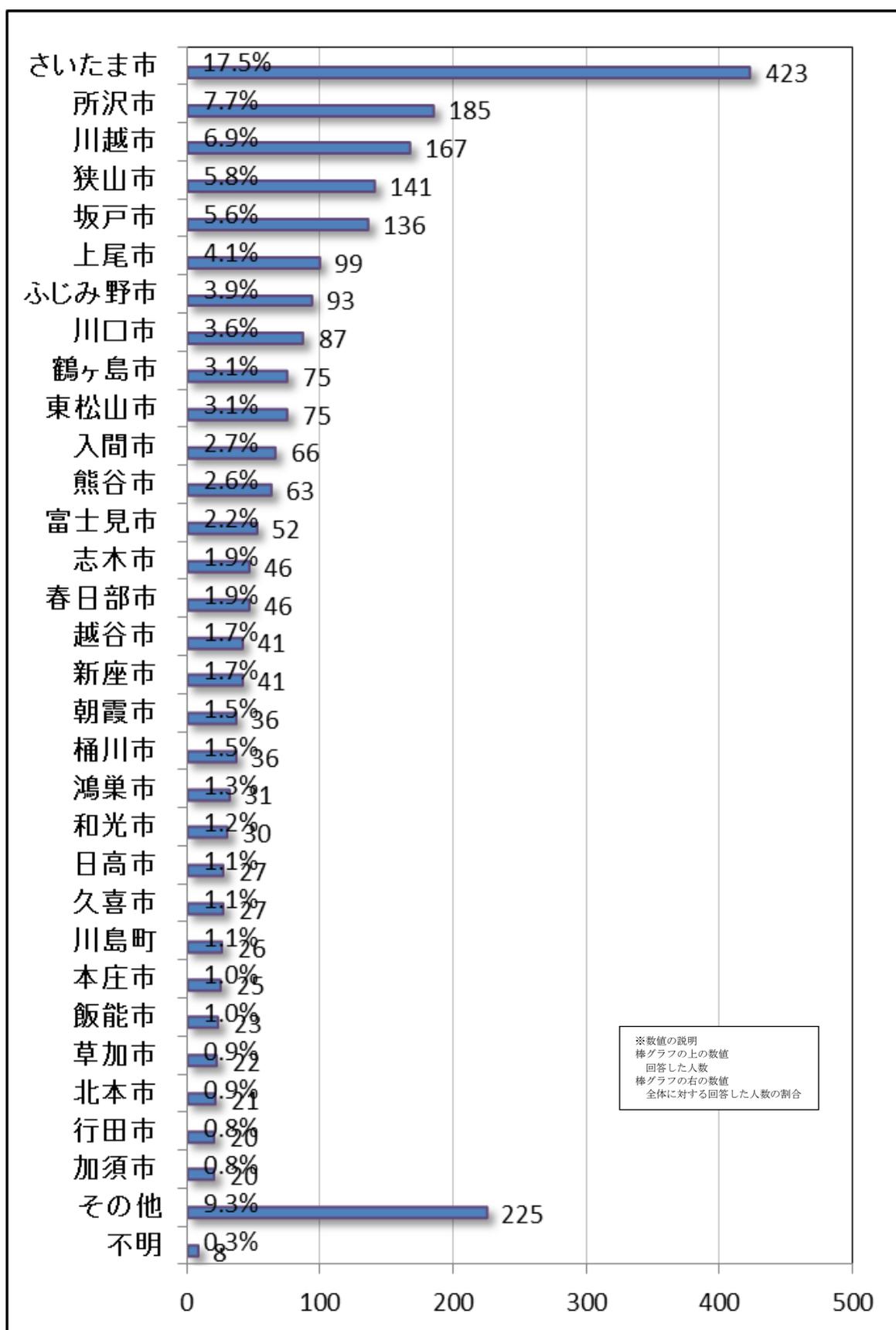
全体の過半数以上に上る 61.1%を占めた埼玉県と東京都の観光客について、市区町村別出発地は、図4（埼玉県）、図5（東京都）のとおりとなった。

### (ア) 埼玉県

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の 17.5%を占め、前年よりも 0.6 ポイント増加した（平成 23 年度：16.9%）。距離の近さ、人口の多さ（1,246,180 人、平成 25 年 4 月 1 日現在）、および、JR 川越線、国道 16 号などによる交通アクセスの利便性の良さなどが最上位になった要因と考えられる。

その次に多かったのは、所沢市の 7.7%であった。続いて第 3 位は川越市（6.9%）、第 4 位は狭山市（5.8%）、第 5 位は坂戸市（5.6%）という結果だった。

(図 4) 埼玉県の市区町村別出発地

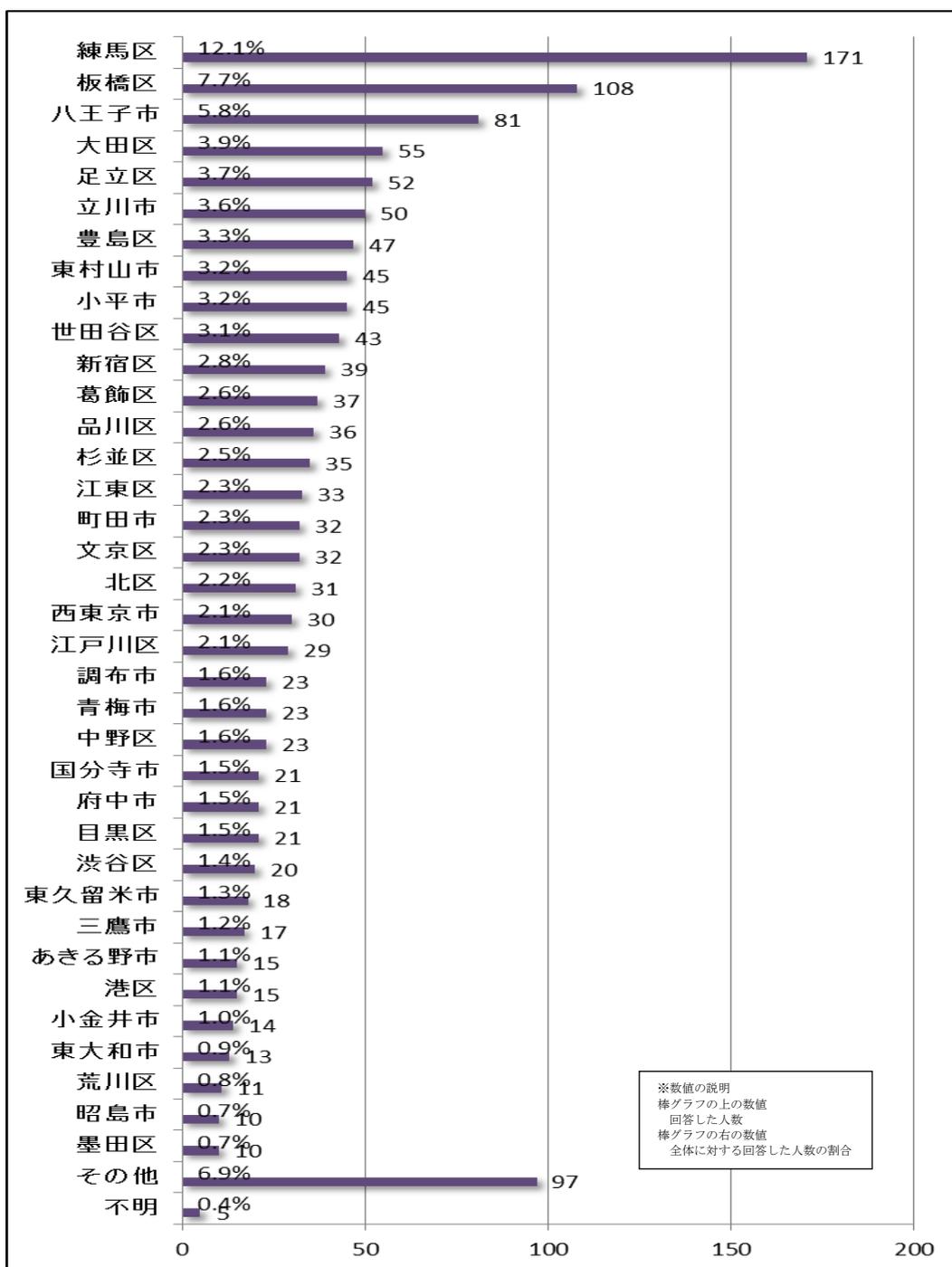


## (イ) 東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の 12.1%を占めた。練馬区が第1位となった要因としては、人口の多さ（709,609人、平成25年4月1日現在）や、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道254号）、関越自動車道（練馬IC～川越IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第2位は板橋区の7.7%で、続いて第3位は八王子市(5.8%)、第4位は大田区(3.9%)、第5位は足立区(3.7%)という結果だった。また、立川市は前年よりも1.5ポイント上回り、3.6%という結果だった（平成23年度は2.1%）。

(図5) 東京都の市町村別出発地



## (2) 国外

国外から出発した観光客は 114 人であり、台湾（31 人）、中国（16 人）、アメリカ合衆国（14 人）、韓国（11 人）、タイ（10 人）が上位となった。（表 3）

川越市内の各案内所（川越駅観光案内所、本川越駅観光案内所、仲町観光案内所）の統計による平成 24 年の外国人観光客利用者数の上位国は、台湾（1,090 人）、韓国（908 人）、アメリカ合衆国（848 人）、中国（837 人）、香港（640 人）で、観光アンケート調査と同様、東アジアとアメリカ合衆国からの観光客が多いという結果となっている。

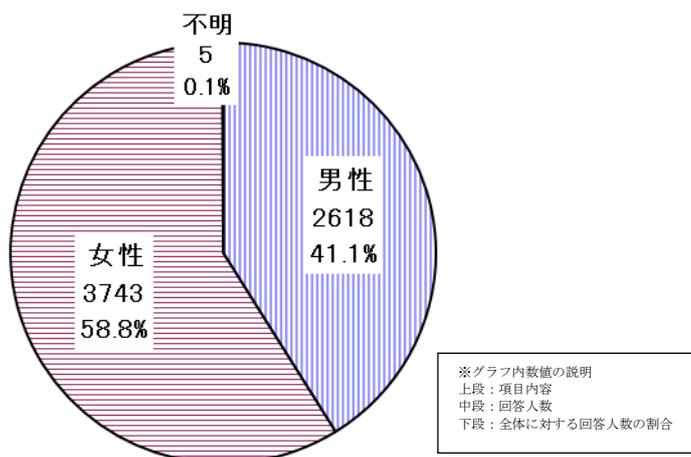
(表 3) 国別出発地

国 名	回答者数
台湾	31 人
中国	16 人
アメリカ合衆国	14 人
韓国	11 人
タイ	10 人
香港	9 人
インドネシア、マレーシア	各 4 人
フィリピン、オーストラリア	各 3 人
カナダ	2 人
ベトナム、コロンビア、オランダ、オーストリア、フィンランド、フランス、ドイツ	各 1 人
計	114 人

## 2-3-2 性別

性別は、平成23年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が58.8%、男性が41.1%という結果となった。（図6）

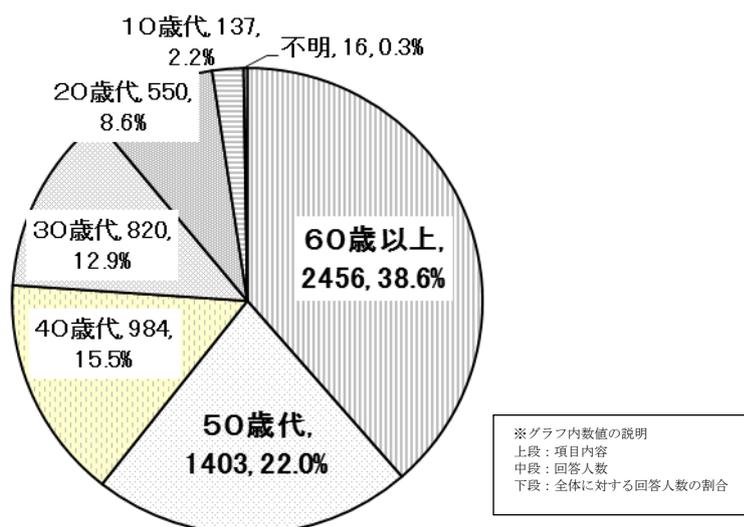
（図6） 性別



## 2-3-3 年齢

年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。（図7）  
50歳代以上の中高年層が過半数の60.6%という結果だった。

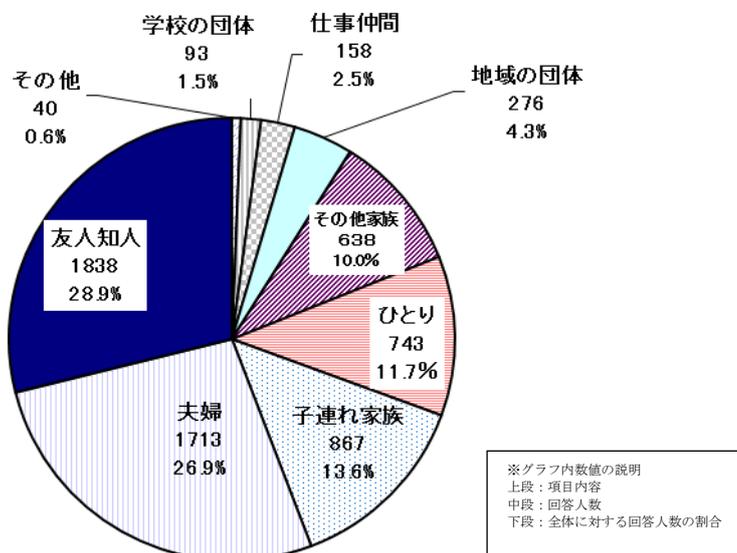
（図7） 年齢



## 2-3-4 同行者

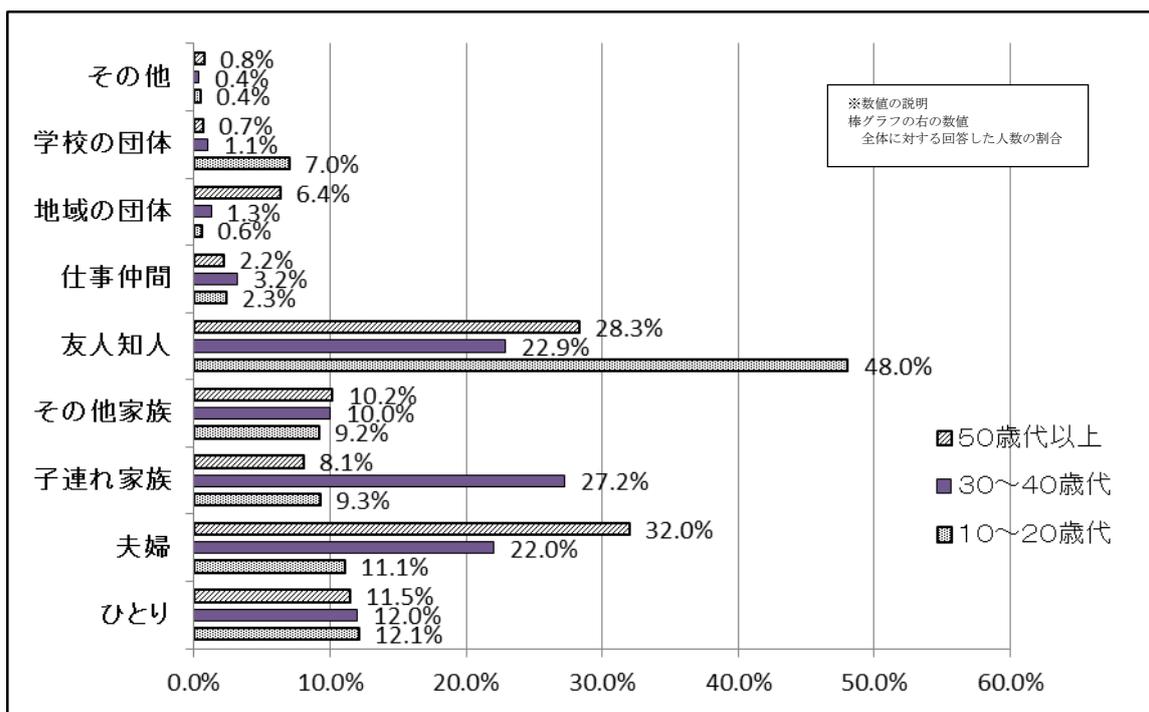
友人知人で川越を訪れる観光客が最も多かったが（28.9%）、夫婦（26.9%）、子連れ家族（13.6%）やその他家族（10.0%）も含め、家族で川越を訪れる観光客が半数以上を占める結果となった（50.5%）。（図8）

（図8） 同行者



また、世代別（10～20歳代、30～40歳代、50歳代以上）の同行者を調べたところ、10～20歳代では友人知人（48.0%）の割合が最も多く、30～40歳代では子連れ家族（27.2%）の割合が最も多かった。50歳代以上では夫婦（32.0%）の割合が最も多かった。（図9）

（図9）

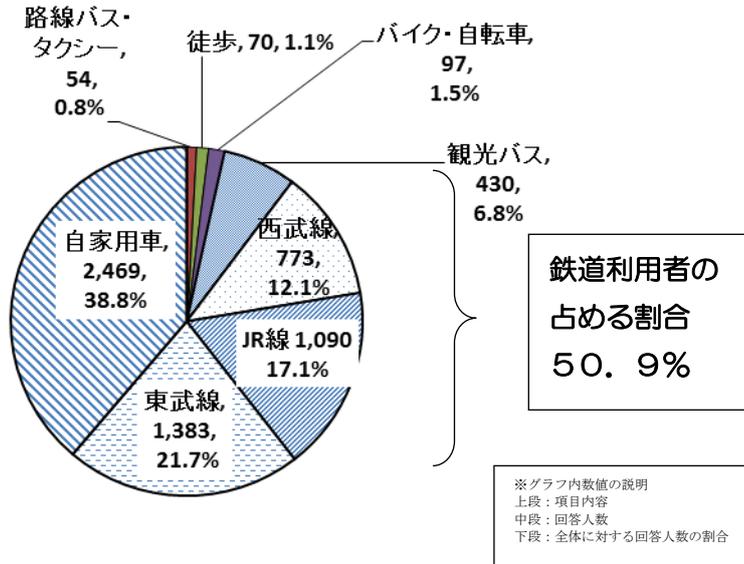


### 2-3-5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道 3 社の利用客率を合計すると約半数（50.9%）になり、平成 23 年度の利用客率（48.6%）より 2.3 ポイント増加した。

また、自家用車の利用客率（38.8%）は前年に比べて 1.1 ポイント減少した（平成 23 年度は 39.9%）。（図 10）

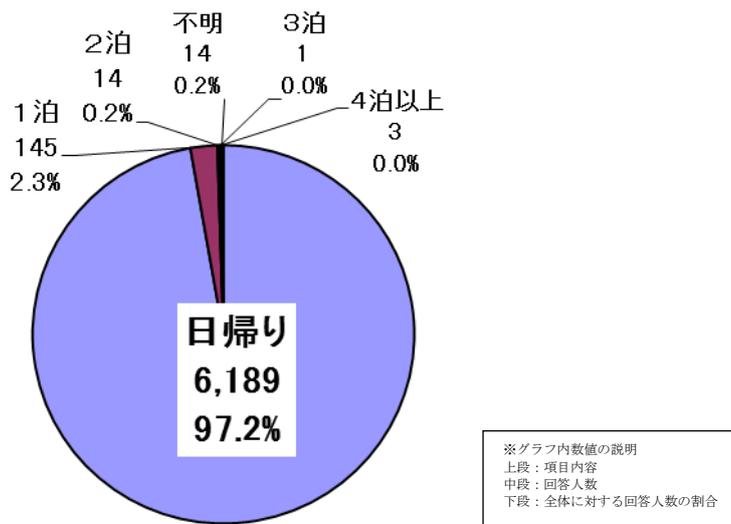
（図 10） 交通手段



### 2-3-6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが 97.2%と、大半を占めた。平成 23 年度（日帰りが 96.6%）より 0.6 ポイント増加した。（図 11）

（図 11） 滞在期間



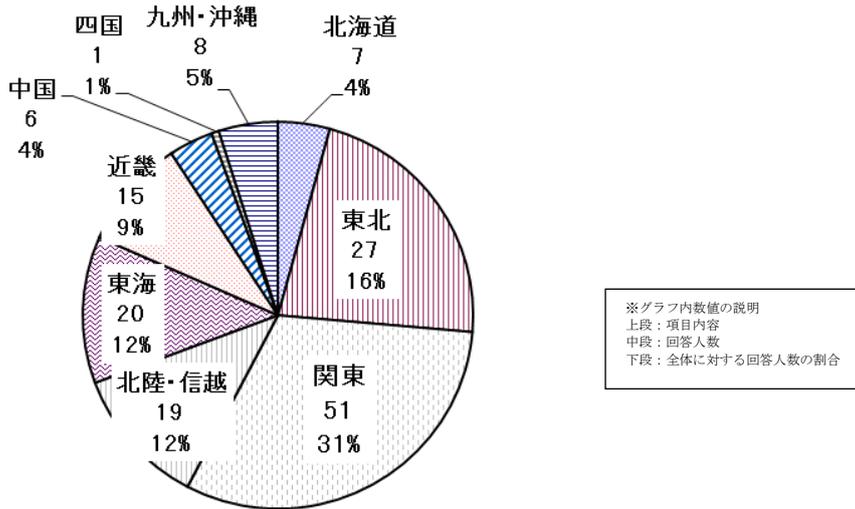
## 2-3-7 宿泊観光客

川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、2.6%（163人）だった。国外が出発地の観光客はいなかった。

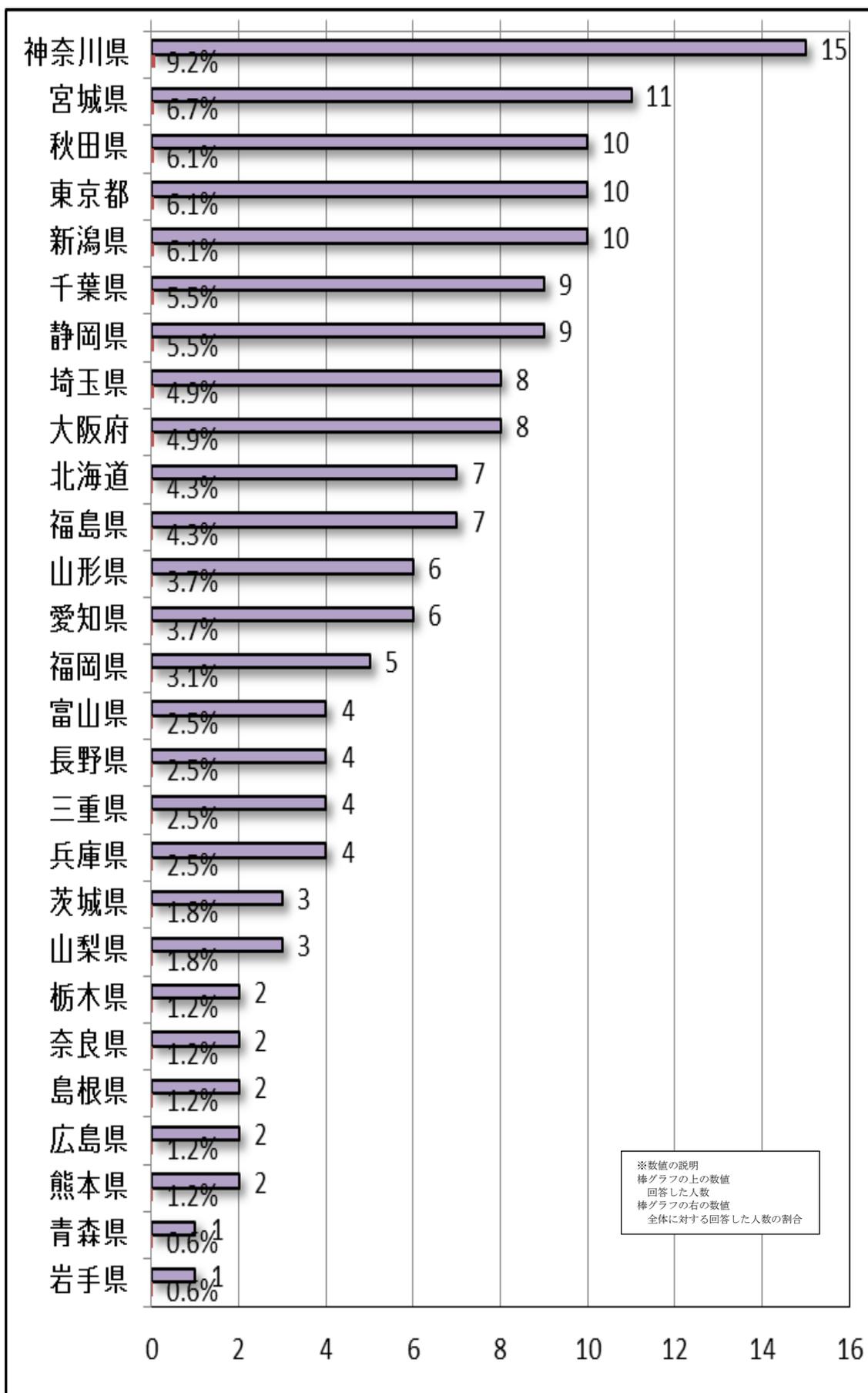
国内の出発地の地方別内訳は(図12)、都道府県別内訳は(図13)のとおりである。

都道府県別では、神奈川県が最も多く（15人、9.2%）、次点は宮城県（11人、6.7%）だった。また、第3位は秋田県、東京都、新潟県（各10人、各6.1%）だった。

(図12) 宿泊観光客の地方別出発地



(図 13) 宿泊観光客の都道府県別出発地

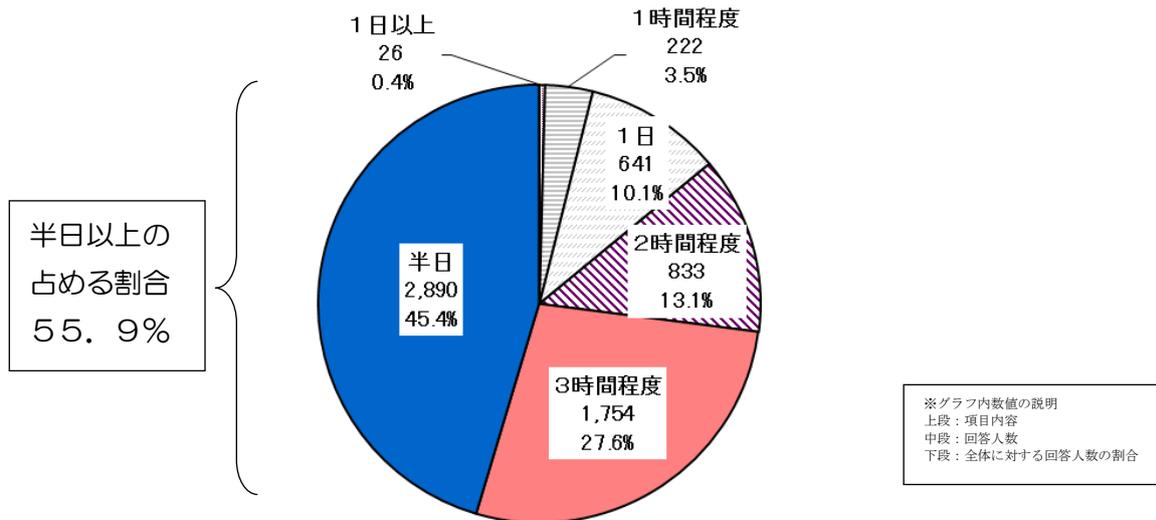


### 2-3-8 観光時間

川越は日帰り観光が主力となっていることから、観光時間が3時間程度から半日の観光客が大半を占めた。(図14)

平成22年度以降の観光アンケート調査と比較すると、観光時間が1～3時間程度の観光客率の推移は51.2%（平成22年度）→44.9%（平成23年度）→44.1%（平成24年度）となっており、半日以上の観光客率の推移は48.5%（平成22年度）→55.1%（平成23年度）→55.9%（平成24年度）となっており、滞在時間の延長が見られる。

(図14) 観光時間

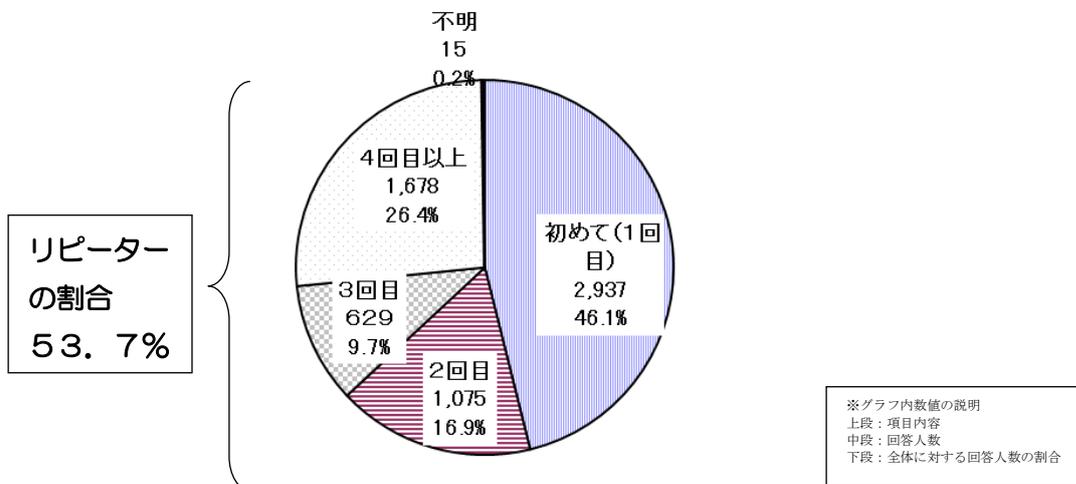


### 2-3-9 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は46.1%で、平成23年度の42.4%から3.7ポイント増加した。2回以上訪れている「リピーター」は53.7%だった。(図15)

リピーターの中でも4回以上訪れているリピーターが多くを占めた(26.4%)。

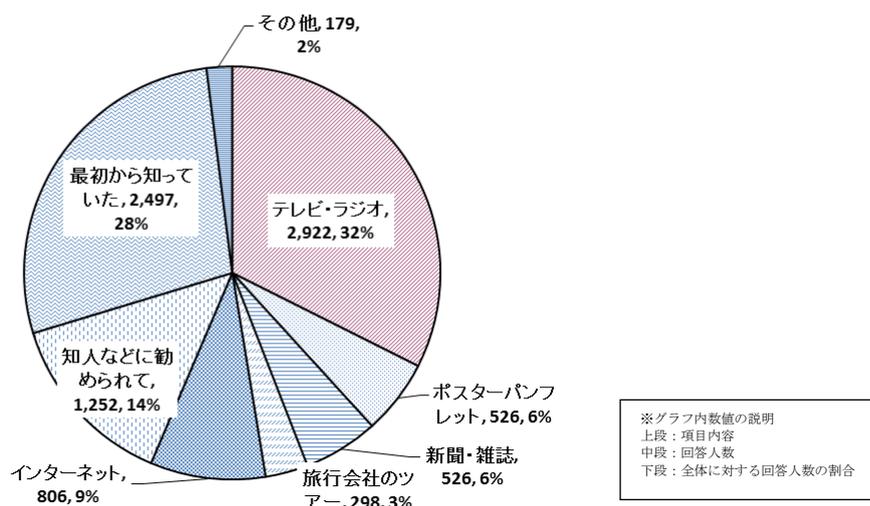
(図15) 来訪回数



## 2-3-10 認知方法

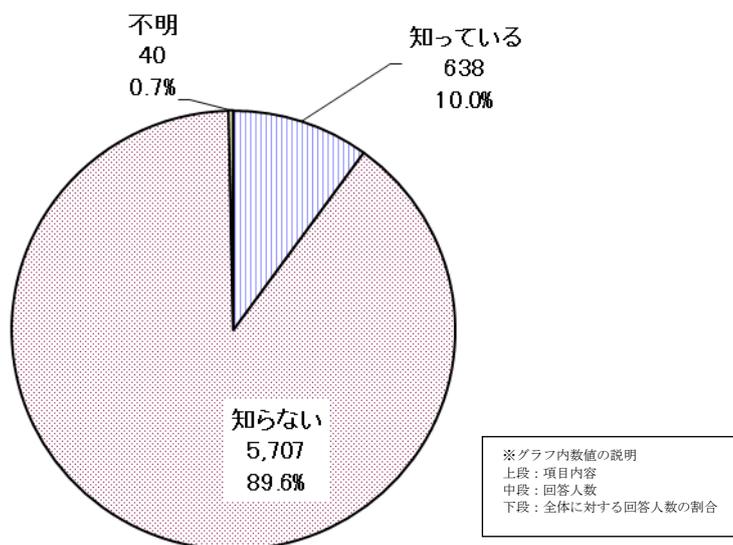
川越を知った方法は、テレビ・ラジオが 32%と最も多く、平成 23 年度の 25%から 7 ポイント増えた。平成 23 年度に 27%で 1 番多かった「最初から知っていた（地元の人を含む）」は、平成 24 年度は 28%で、割合としては前年同様であった。地元の方（川越市）を除くと 2,340 人となり、26.0%という結果となった。

(図 16) 認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」（4 ページ参照）の認知度についても調査を行った。「ときも」を知っていると答えた人は全体の 10.0%で平成 23 年度の 7.6%から 2.4 ポイント増加した。これは平成 24 年 1 月から 3 月まで行った「おでかけときも」事業の成果や、テレビなどメディアでの露出が増加したことが、要因に挙げられる。

(図 17) 「ときも認知度」



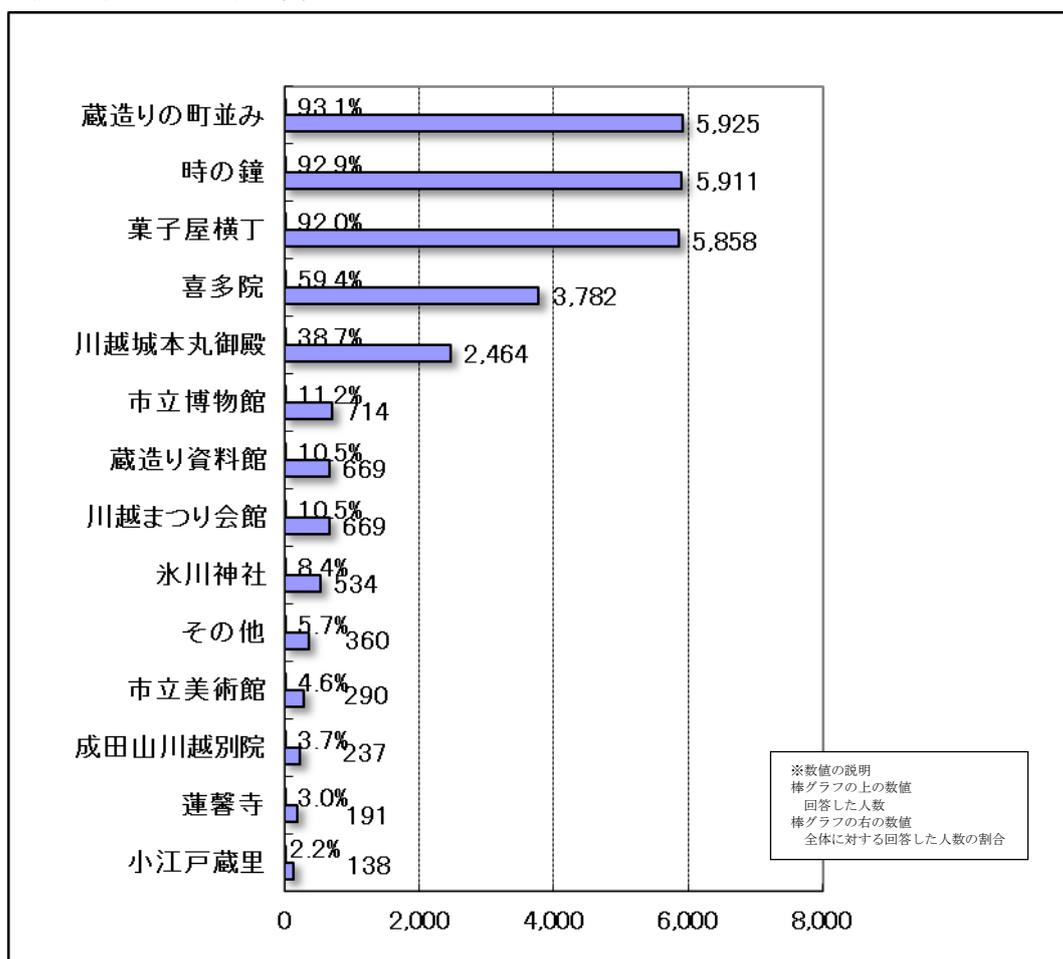
## 2-3-11 立ち寄り観光地

立ち寄り観光地について調査を行ったところ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁は約9割の観光客が訪れていた。これは平成23年度の調査とほぼ同様の結果だった。

(図18) その次に多かったのは喜多院で59.4%の観光客が訪れていた。第5位は川越城本丸御殿(38.7%)だった。また、川越まつり会館が平成23年度の6.4%から10.5%と4.1ポイント増加した。氷川神社が平成23年度の6.7%から8.4%と増加した。

また、観光客一人につき、平成24年度は平均4.3箇所の観光地を訪れていたが、平成23年度の4.2箇所と同様の結果であった。

(図18) 立ち寄り観光地



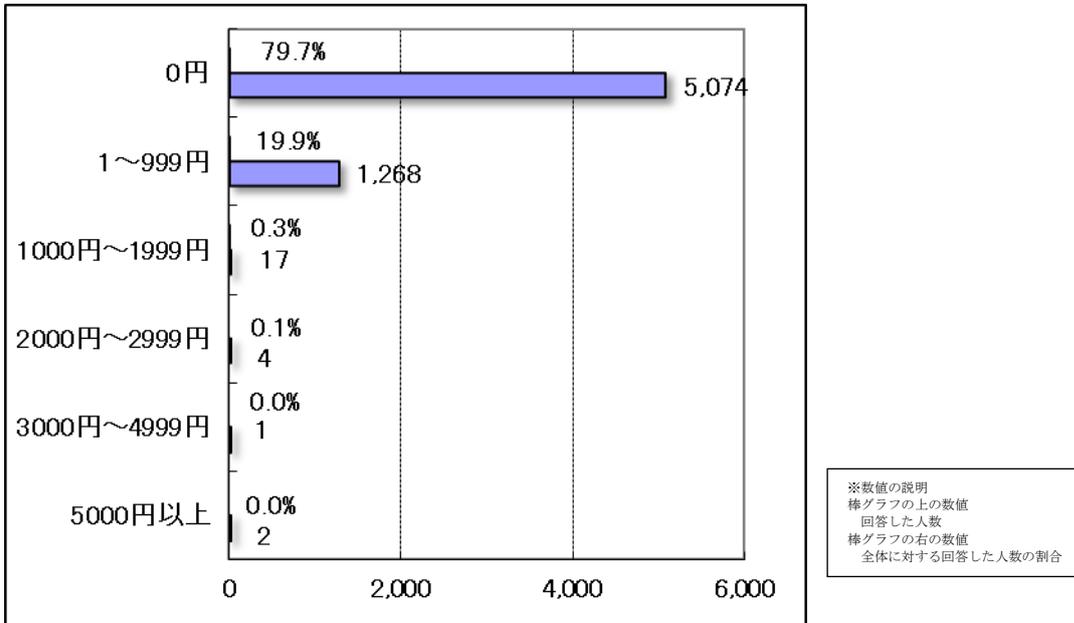
※回答者1人につき、複数回答あり

※割合(%)は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数(6,366人)で割ったもの

### 2-3-12 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が79.7%と大半を占めているが、平成23年度の84.0%から4.3ポイント減少した。「支出する」割合はおよそ20.3%であり、そのほとんどは1,000円未満の支出だった。また、一人あたりの平均交通費は392円であり、平成23年度の423円よりも31円減少した。(図19)

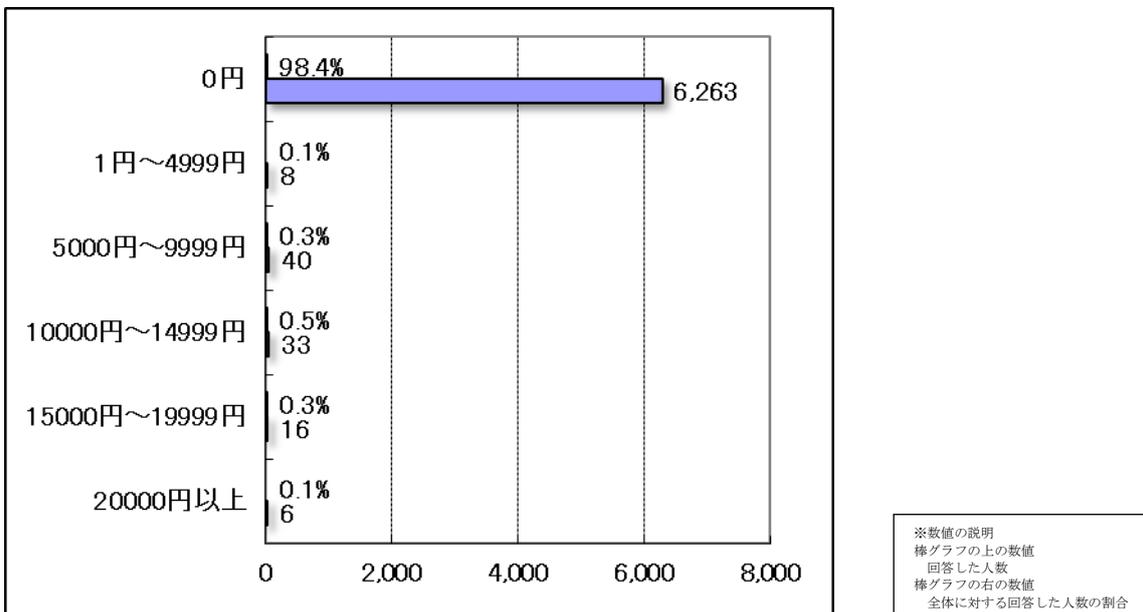
(図19) 交通費



### 2-3-13 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の98.4%で、前年度から0.5ポイント減少した(平成23年度:98.4%)。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は10,436円で、平成23年度の10,375円よりも61円増加した。(図20)

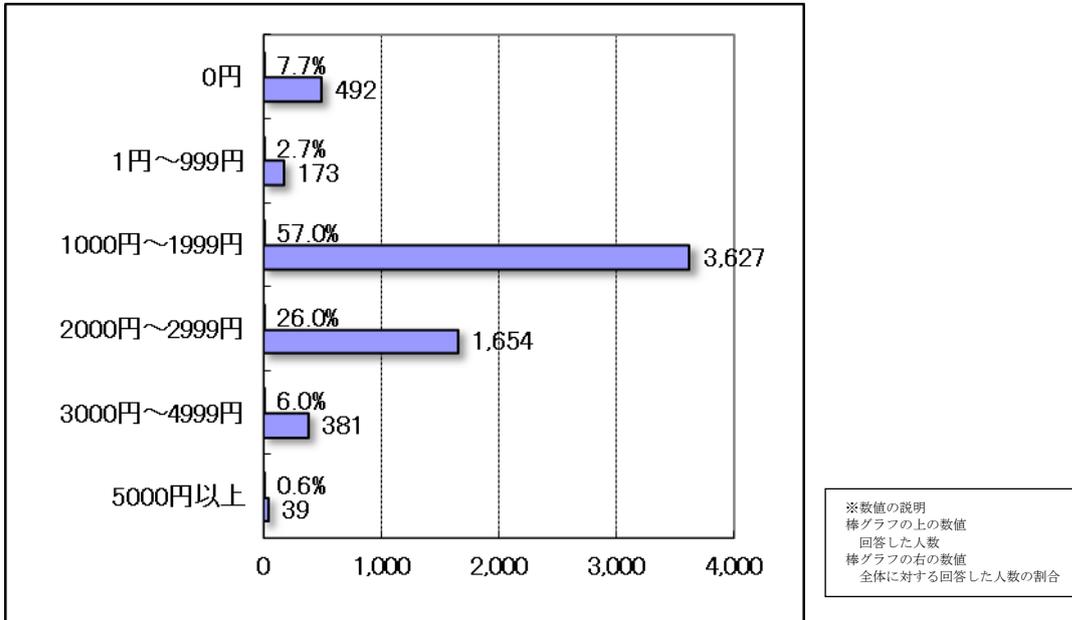
(図20) 宿泊費



### 2-3-14 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が7.7%であり、平成23年度の8.5%と比較して、0.8ポイント減少した。飲食費は1,000円台が最も多く、一人あたりの平均飲食費は1,601円で、前年度とほぼ変わらない結果となった（平成23年度は1,594円）。（図21）

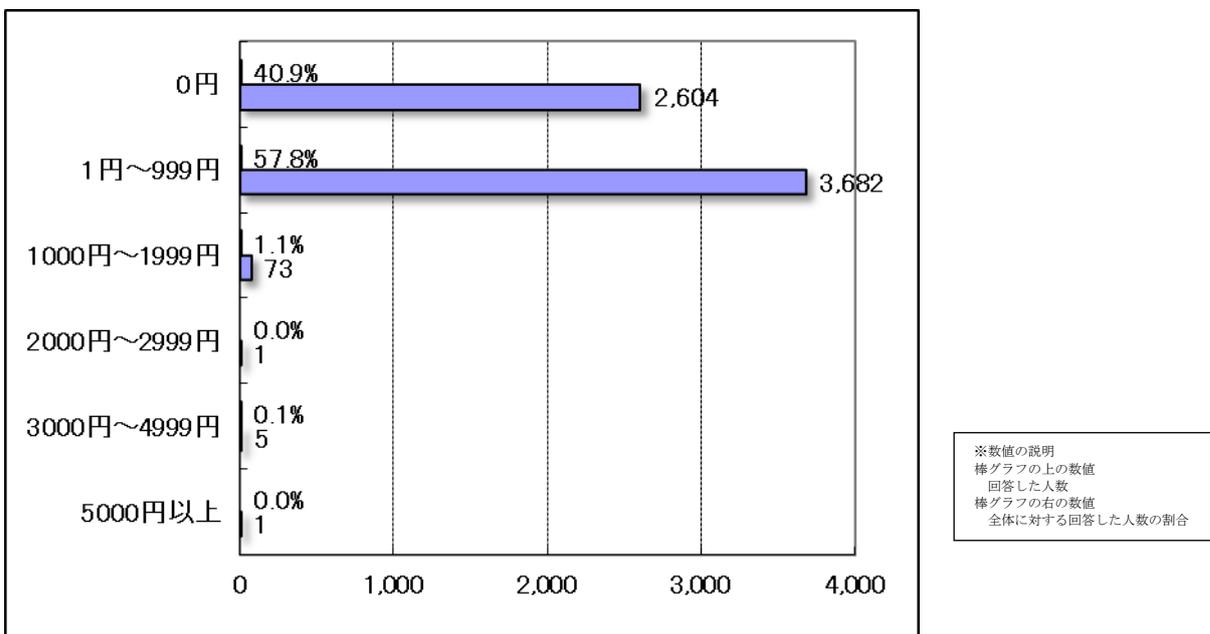
（図21） 飲食費



### 2-3-15 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が40.9%であり、平成23年度と比較して、0.9ポイント減少した。入館料・入場料の支出は1,000円未満が最も多く、一人あたりの平均入館料・入場料は426円で、前年度の433円よりも17円増加した。（図22）

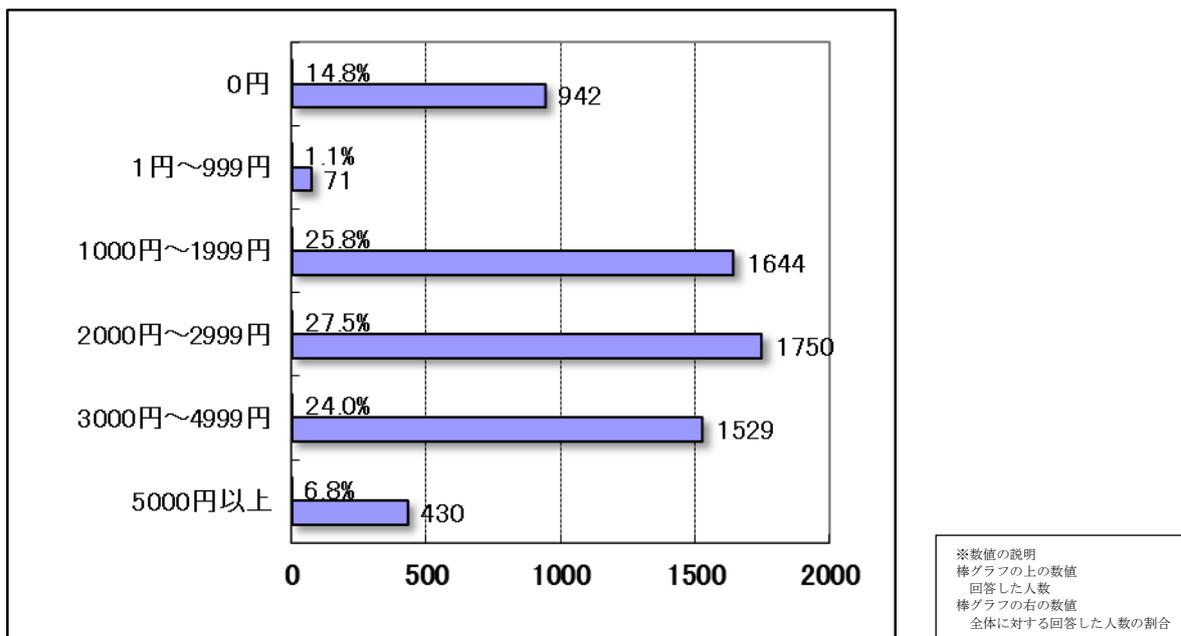
（図22） 入館料・入場料



## 2-3-16 お土産購入費

市内におけるお土産購入費は、「支出なし」が 14.8%であり、前年度に比較して 1.2 ポイント減少した。お土産購入費は、2,000 円以上、3,000 円未満が最も多く、1 人あたりの平均購入額は 2,344 円で、前年度の 2,359 円と比較して 15 円減少した。(図 23)

(図 23) お土産購入費

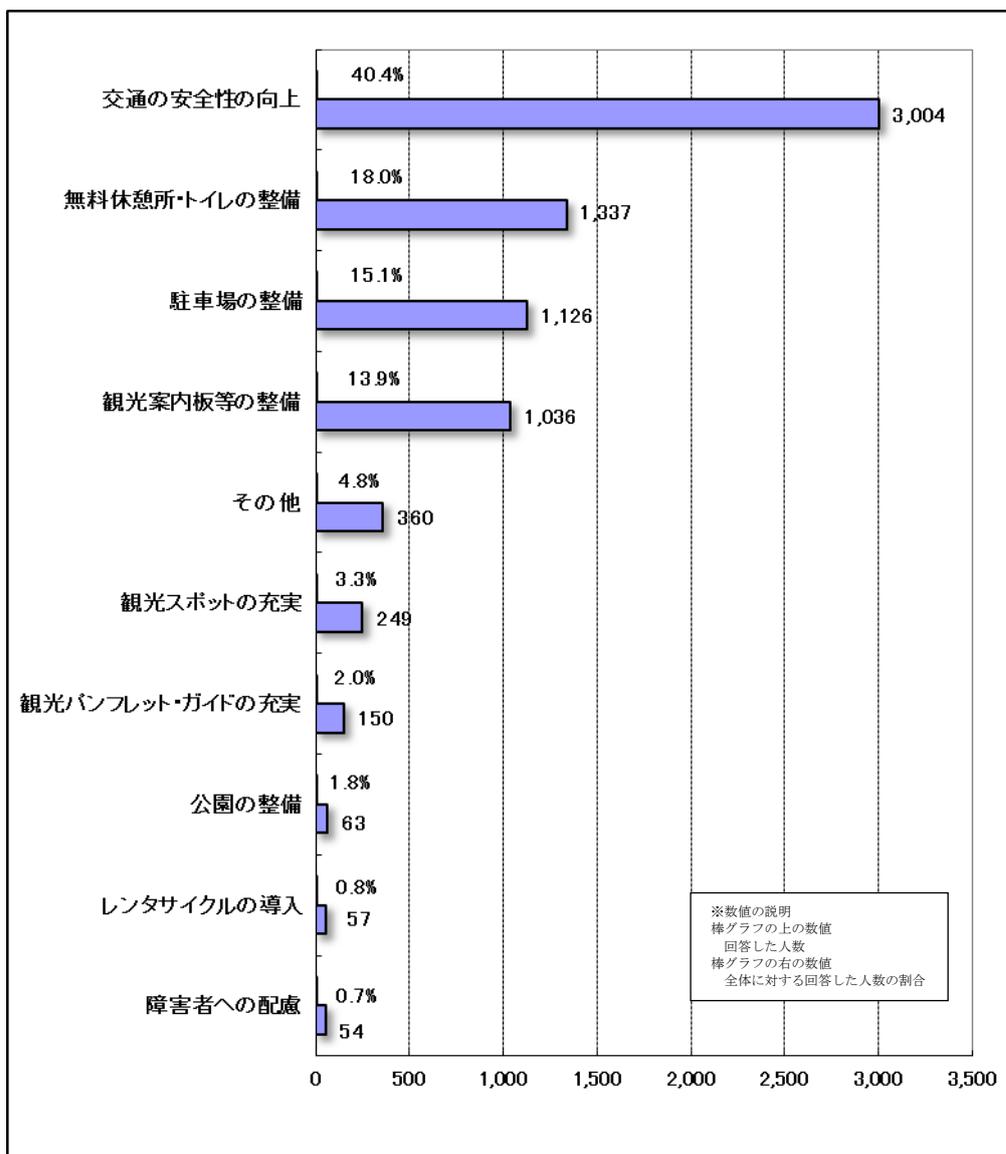


## 2-3-17 要望

「交通の安全性の向上」(40.4%)が要望として最も多く、平成23年度40.7%と同様の結果であった(平成22年度は34.5%)。(図24)

次点は、「無料休憩所・トイレの整備」(18.0%)で、3番目に「駐車場の整備」(15.1%)でという結果で、これは昨年度の結果と同様だった。

(図24) 要望



※回答者1人につき、複数回答あり。(%)は回答者総数(6,366人)に対する割合である。

## 2-3-18 意見・感想

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。中でも一番街の交通安全対策や歩行者天国の実施を求める声が最も多く、多くの観光客が、道幅が狭く交通量の多い一番街に危険を感じていることが窺えた。その他の意見としては、観光案内板の整備などを求める意見があった。また、子供が遊べる場所や授乳できる場所の表示など、子連れ家族に対する配慮を求める声もあった。車で観光に来ている方からは、駐車場の料金が安い、無料の駐車場の設置や、渋滞の解消、車からの案内板の表示を見やすくしてほしい等の意見・要望があった。（表4）

（表4）川越に対する主な意見・感想

- ・ 景観の保存、維持を推進して欲しい。
- ・ 町並みがきれい。
- ・ 店の方が親切で、いい町だ。
- ・ 歩行者天国を実施して欲しい。
- ・ 一方通行を実施して欲しい。
- ・ 道が狭いので、歩行者が危ない。
- ・ 休日の歩行者の安全を考えて欲しい。
- ・ 駅前の渋滞を解消して欲しい。
- ・ 川越と名が付く駅が3つもあるので、観光地に最寄の駅がわかりづらい。
- ・ 観光案内板が見つらい。
- ・ 車から見える案内版を増設して欲しい。
- ・ 外国語の案内板を増やして欲しい。
- ・ 駐車料金が安い。
- ・ 無料の駐車場を作って欲しい。
- ・ 巡回バスの本数を増やして欲しい。
- ・ 駅から無料のシャトルバスを運行して欲しい。
- ・ 無料の休憩所を作って欲しい。
- ・ テレビで川越が紹介されているのを見て、来てみた。
- ・ 駅の観光案内所が目立たない。
- ・ 子供が遊べるような観光スポットを作って欲しい。
- ・ 観光客用の駐輪場を整備して欲しい。
- ・ 授乳できる場所の表示がわかりづらい。
- ・ 喫煙所を増設して欲しい。
- ・ アニメを見て川越を訪れた。
- ・ 相互直通のニュースを見て横浜から来た。

### 3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成23年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成24年の入込観光客数は623万7千人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため(11ページ、図8参照)、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数623万7千人の約40%の249万人と仮定し(平成23年度は602万7千人の約40%である241万人を用いた)、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

(表5) 消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率 ※①	平均消費額 ※②	消費活動人数 ※③	消費総額 ※④
交通費	20.3%	392円	505,470人	198,144,240円
宿泊費	1.6%	10,436円	39,840人	415,770,240円
飲食費	92.3%	1,601円	2,298,270人	3,679,530,270円
入館料・入場料	59.1%	426円	1,471,590人	626,897,340円
お土産購入費	85.2%	2,344円	2,121,480人	4,972,749,120円
計				9,893,091,210円

※①消費活動率…アンケート回答者総数(6,366人)に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数249万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産購入費の約49億7300万円で、最も低かったのは交通費の約1億9800万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の10,436円で、最も低かったのは、交通費の392円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約98億9300万円となった。平成23年度の結果(約93億1200万円)と比較すると、約6.2%の増加となった(図25)。

各項目で見ると、交通費は前年度に比べ約22%、宿泊費が約45%増、飲食費の消費額が約4.6%増、入館料・入場料が約9.4%増、お土産購入費は約4.2%増と前年度に比べ、全ての項目で増加した(表6参照)。

(表 6) 平成 23 年度の消費項目別の観光客平均消費額

項 目	消費活動率 ※①	平均消費額 ※②	消費活動人数 ※③	消費総額 ※④
交 通 費	16.0%	423 円	384,725 人	162,689,384 円
宿 泊 費	1.1%	10,375 円	27,617 人	286,530,320 円
飲 食 費	91.5%	1,594 円	2,205,555 人	3,516,079,914 円
入館料・入場料	58.2%	409 円	1,401,966 人	572,807,481 円
お土産購入費	84.0%	2,359 円	2,024,124 人	4,774,431,323 円
計				9,312,538,421 円

消費額が増加した主な要因の一つとしては、平成 24 年度観光アンケート調査における観光客の滞在時間が前年度に比べて伸びており（P15、図 14 参照）、それに伴って観光客の消費動向に変化があったことが考えられる。

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。（表 7）

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」（ホテルや旅館に宿泊と推定）と「宿泊費を支出しない観光客」（家族や友人の家などに宿泊と推定）がいたため、両者を区別して算出した。

(表 7) 滞在形態別の観光客平均消費額

項 目	人数（人）	平均消費額（円）
宿泊観光客（宿泊費支出あり）	96	17,633
宿泊観光客（宿泊費支出なし）	67	5,148
日帰り観光客	6,203	3,750
全体	6,366	3,975

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 17,633 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 5,148 円、日帰り観光客は 3,750 円だった。

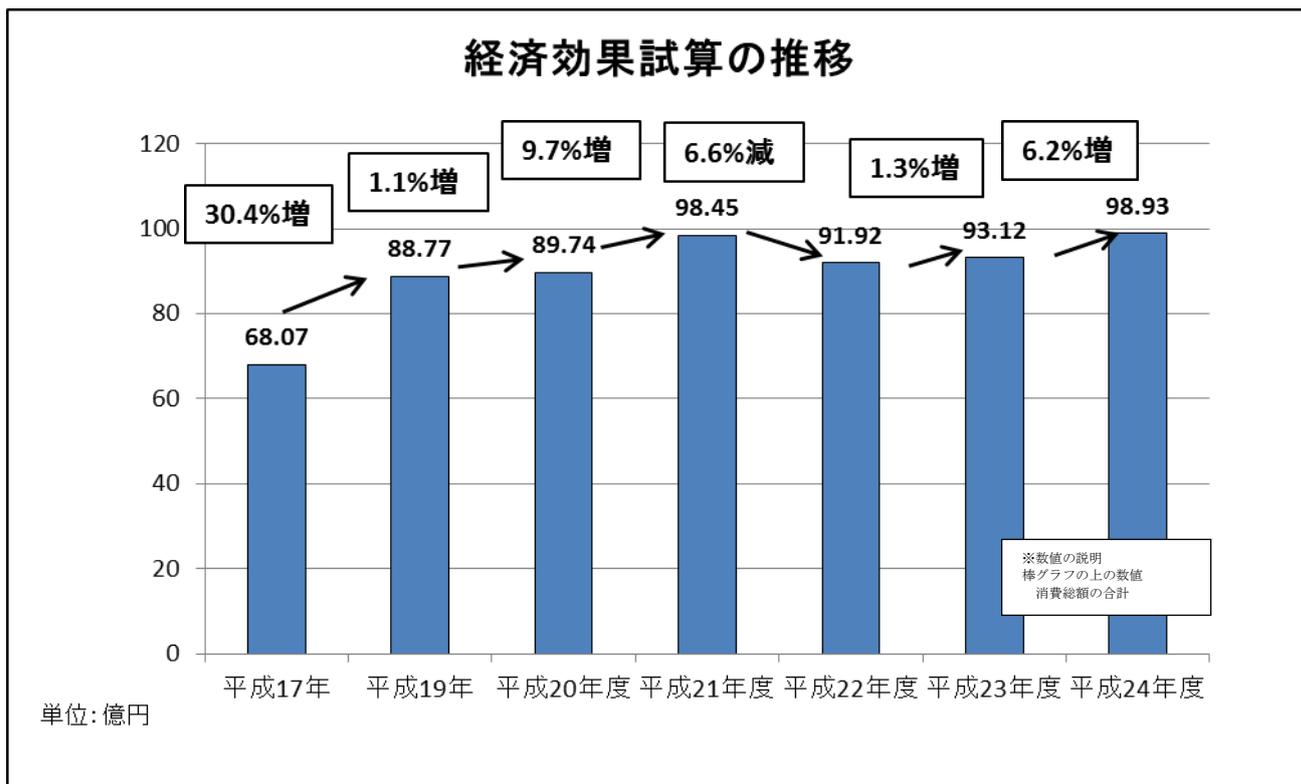
また、観光客全体では 3,975 円だった。3,864 円だった平成 23 年度と比較すると、111 円増加した。

次に、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上、不明除く）で平均消費額を調べたところ、10～20 歳代の平均消費額は 3,616 円、30～40 歳代の平均消費額は 3,745 円、50 歳代以上の平均消費額は 4,209 円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増えていくことが分かった。（表 8）

(表 8) 世代別の観光客平均消費額

項目	人数 (人)	平均消費額 (円)
10～20 歳代	687	3,616
30～40 歳代	1,804	3,745
50 歳代以上	3,859	4,209

(図 25) 経済効果試算の推移



※平成 18 年については、観光アンケート調査を行っていない。



川越市観光アンケート調査報告書 平成24年度

平成25年5月

編集・発行 川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940 (直通) 049-224-8811 (代表)

FAX 049-224-8712